現代短歌分類辞典

津端 亨 編纂

新装版

50巻

現代短歌分類辞典

新装判
50巻

津端亨 編纂

現代短歌分類辞典

新装版50巻

通巻208

平成七年三月十二日発行　定価一七、四〇〇円

著者発行兼印刷者　津端　亨

発行所　現代短歌分類辞典刊行所

代表　津端　亨

〒345　埼玉県北葛郡杉戸町宮前一九六―五

電話（〇四八〇）三八―〇〇四〇番

振替　東京三―九三一一四

（ISBN 4－87706－208－4）

目次

	歌数	頁数
ふんぬ〔憤怒・忿怒〕	二九	一
ぶんのう〔分納〕	一	一
ぶんぱい〔分配〕	二	一
ふんばり〔踏ん張り〕	七	二
ふんばる〔踏ん張る〕	二	二
ぶんぴ〔分泌〕	一	二
ぶんぴえき〔分泌液〕	一	二
ぶんぴつ〔文筆〕	二	二
ふんびょう〔分秒〕	七	二
ぶんぶ〔文武〕	一	二
ぶんぷ〔分布〕	二	三
ふんぷん〔紛紛・紛々〕	一	三
ぷんぷん	八	三
ふんべつ〔分別〕	九	三
ぶんべん〔分娩〕	三	三
ぶんべんしつ〔分娩室〕	二	三
ふんぼ〔墳墓〕	二〇	四
ぶんぽう〔文法〕	六	四
ぶんぽうしょ〔文法書〕	一	四
ぶんぼうぐ〔文房具〕	一	四
ふんまつ〔粉末〕	九	四
ふんまん〔憤懣〕	三	五
ふんむ〔噴霧〕	二	五
ふんむき〔噴霧器〕	二	五
ぶんめい〔文明〕	一一	五
ぶんめん〔文面〕	二	六
ぶんもう〔文盲〕	二	六
ぶんや〔分野〕	一	六
ぶんらく〔文楽〕	八	六
ぶんらくざ〔文楽座〕	一	六
ふんらくにんぎょう〔文楽人形〕	一	六
ぶんり〔分離〕	四	六
ぶんりかだいがく〔文理科大学〕	一	六
ぶんりゅう〔分流〕	一	七
ぶんりょう〔分量〕	二	七
ぶんるい〔分類〕	一一	七
ぶんれつ〔分列〕	三	七
ぶんれつ〔分裂〕	六	七
ぶんれつこうしん〔分列行進〕	一	七
ぶんれつしょう〔分裂症〕	一	八
ふんわり	二	八
べ〔辺〕	六	八
へ	六	八
へ〔屁〕	二〇	八
へーげる〔ヘーゲル〕	四	九
べーこん	一	九
べーす	四	九
べーすぼーる〔ベースボール〕	五	九
ぺーぱー	一	一〇
ぺーぱーないふ	二	一〇
べーりんぐ	二	一〇
べーる	二	一〇
へい〔兵〕	九四七	一〇
へいあん〔平安〕	一〇一	四二
へいあんじんぐう〔平安神宮〕	三	四四
へいあんえまき〔平安絵巻〕	一	四四
へいあんちょう〔平安朝〕	三	四四
へいい〔平易〕	四	四四
へいいん〔兵員〕	一	四五
へいえい〔兵営〕	二五	四五
へいえき〔兵役〕	四	四五
へいおん〔平温〕	一	四六
へいおん〔平穏〕	一六	四六
へいか〔兵火〕	九	四六
へいか〔陛下〕	五五	四六
べいか〔米価〕	五	四八
へいき〔兵器〕	一六	四八
へいき〔平気〕	一二	四九
へいきん〔平均〕	三	四九
へいきんじゅみょう〔平均寿命〕	一	五〇
へいきんだい〔平均台〕	一	五〇
へいきんてき〔平均的〕	一	五〇
へいけ〔平家〕	一五	五〇
へいけがに〔平家蟹〕	一	五〇
へいけぼたる〔平家蛍〕	一	五〇

へいげん〔平原〕 二五 五〇
へいこう〔平衡〕 一三 五一
へいこう〔平行〕 六 五二
へいこう〔並行〕 三 五二
へいこう〔閉口〕 一 五二
へいこうせん〔平行線〕 六 五二
べいこく〔米国〕 五 五二
べいこく〔米穀〕 一 五二
べいごま 一 五三
へいさ〔閉鎖〕 一〇 五三
べいざい〔米材〕 一 五三
べいさく〔米作〕 一八 五三
へいし〔平氏〕 三 五四
へいし〔兵士〕 一五七 五四
へいじつ〔平日〕 三 五九
へいしゃ〔兵舎〕 四七 五九
べいじゅ〔米寿〕 一九 六〇
べいしゅうへい〔米州兵〕 一 六一
へいじょう〔平常〕 五 六一
へいじょう〔閉場〕 三 六一
へいじょうきょう〔平城京〕 一 六一
へいしょく〔兵食〕 二 六一
べいしょく〔米食〕 二 六一
へいせい〔平静〕 一六 六一
へいぜい〔平生〕 四 六二
へいせき〔兵籍〕 二 六二
へいぜん〔平然〕 一〇 六二
へいそ〔平素〕 二 六三
へいぞく〔平俗〕 五 六三
へいそくせん〔閉塞船〕 一 六三
へいそつ〔兵卒〕 一四 六三
へいそん〔併存〕 一 六三
へいたい〔兵隊〕 九六 六四
へいたん〔兵站〕 一 六六
へいたん〔平坦〕 六 六六
へいたん〔平淡〕 一 六七
へいだん〔兵団〕 四 六七
へいたんしれいぶ〔兵站司令部〕 一 六七
へいたんびょういん〔兵站病院〕 一 六七
へいち〔平地〕 一九 六七
へいてい〔平定〕 一 六七
へいてん〔閉店〕 六 六八
へいねつ〔平熱〕 四 六八
へいねん〔平年〕 一 六八
へんねんさく〔平年作〕 一 六八
へいば〔兵馬〕 六 六八
べいばく〔米麦〕 三 六八
へいはつ〔併発〕 一 六八
へいばん〔平板〕 五 六九
べいはん〔米飯〕 六 六九
へいび〔兵備〕 一 六九
へいふく〔平服〕 一 六九
へいふく〔平伏〕 一 六九
へいほう〔平方〕 五 六九
へいぼん〔平凡〕 一五六 六九
へいめい〔平明〕 八 七四
へいめん〔平面〕 一八 七四
へいめんず〔平面図〕 一 七四
へいもん〔閉門〕 五 七四
へいや〔平野〕 九三 七五
へいゆ〔平癒〕 四 七七
へいよう〔併用〕 一 七七
へいらん〔兵乱〕 二 七七
へいりつ〔並立〕 九 七七
へいりょく〔兵力〕 一 七八
へいれつ〔並列〕 一 七八
へいわ〔平和〕 二一三 七八
へいわじょうやく〔平和条約〕 一 八四
べう〔眇〕 一 八四
ぺがさす〔ペガサス〕 一 八四
べからず〔可からず〕 一一五 八四
べかりけり〔可かりけり〕 一四七 八八
べかりけれ 一 九三
べかりし〔可有〕 一 九三
べき〔可き〕 五三七 九三
へきが〔壁画〕 二六 一一四
へきがん〔碧眼〕 七 一一五
へきぎょく〔碧玉〕 一四 一一五
へきくう〔碧空〕 三一 一一五
へきそん〔僻村〕 二 一一六
へきち〔僻地〕 四 一一六
へきめん〔壁面〕 一四 一一六
へきるり〔碧瑠璃〕 一 一一七
へきれき〔霹靂〕 七 一一七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ぺきん〔北京〕　二五　一一七
ぺきんえんじん〔北京猿人〕　一　一一八
ぺきんじょう〔北京城〕　四　一一八
べく〔可く〕　二一五　一一八
べくして〔可くして〕　七　一二六
べくもあらず〔可くもあらず〕　一五　一二六
へこおび〔兵児帯〕　一　一二七
へこたれる　一　一二七
べごにあ〔ベコニア〕　五　一二七
へこ〔褌〕　一　一二七
へこみ〔凹み〕　三四　一二七
へこむ〔凹む〕　五　一二八
へさき〔舳先〕　三二　一二八
べし〔可し〕　五五〇　一二九
へしおる〔圧し折る〕　一　一四九
べしや〔可しや〕　七六　一四九
べしやは〔可〕　一　一五二
ぺすと〔ペスト〕　二　一五二
へそ〔臍〕　四四　一五二
べそ　五　一五三
へそくり〔臍繰り〕　一　一五三
へそのお〔臍の緒〕　五　一五四
へた〔蔕〕　四　一五四
へた〔下手〕　五　一五四
へたくそ〔下手糞〕　三　一五四
へだたり〔隔たり〕　六八　一五四
へだたる〔隔たる〕　二四　一五六
へだつ〔隔つ〕　五七　一五七
へだて〔隔て〕　一五一　一五九
へだてる〔隔てる〕　四　一六四
べたなぎ〔べた凪〕　一　一六四
へたへた　三　一六四
べたべた　九　一六四
ぺたぺた　二　一六五
ぺたり　二　一六五
へちま〔糸瓜〕　五七　一六五
へちまだな〔糸瓜棚〕　五　一六七
べついん〔別院〕　一　一六七
べっかん〔別館〕　一　一六七
べっきょ〔別居〕　四　一六七
べっこ〔別個〕　一　一六七
べっこう〔鼈甲〕　一　一六七
べっさつ〔別刷〕　一　一六七
べっし〔蔑視〕　四　一六七
べつじ〔別辞〕　五　一六八
べっしつ〔別室〕　四　一六八
べっしゅ〔別種〕　一　一六八
べつじん〔別人〕　四　一六八
べっそう〔別荘〕　一九　一六八
べっそうち〔別荘地〕　三　一六九
べったり　二　一六九
べってい〔別邸〕　一　一六九
べっと〔ベット〕　四三　一六九
べつどうたい〔別動隊〕　一　一七一
へっどらいと　一九　一七一
べっとり　二　一七一
べつに〔別に〕　一六　一七一
べっぷ〔別府〕　二一　一七二
べつべつ〔別別〕　八　一七二
へなみ〔邂逅〕　一　一七三
べつよう〔別様〕　一　一七三
べつり〔別離〕　三一　一七三
べてらん　一　一七四
へど〔反吐・嘔吐〕　八　一七四
べとつく　二　一七四
べとなむ〔ベトナム〕　二一　一七四
へとへと　八　一七五
べとべと　五　一七五
へなへな　一〇　一七五
べに〔紅〕　九三　一七六
べにがら〔紅殻〕　三　一七八
べにしょうが〔紅生姜〕　一　一七八
ぺにしりん〔ペニシリン〕　三　一七八
べにす〔ベニス〕　二　一七八
べにたけ〔紅茸〕　一　一七九
べにづる〔紅鶴〕　三　一七九
べにばな〔紅花〕　九　一七九
べにます〔紅鱒〕　一七　一七九
べにやいた〔ベニヤ板〕　一　一八〇
へぬ〔経ぬ〕　一二一　一八〇
べねちあ〔ベネチア〕　一　一八三
へばりつく　四　一八三
へび〔蛇〕　二六六　一八三
へびいちご〔蛇苺〕　九　一九〇

へびかご〔蛇籠〕 一一一九一
へめぐる〔経巡る〕 二一一九一
へや〔部屋〕 六〇五一一九一
へら〔篦〕 二二一二二
べら〔遍羅〕 一二一二二
べらなり 一二一二三
へらずぐち〔減らず口〕 一二一二三
へらだい〔篦台〕 一二一二三
へらぶな〔篦鮒〕 一二一二三
べらべら 一二一二三
ぺらぺら 二二一二三
べらんだ〔ベランダ〕 一八二一二三
ぺりかん〔ペリカン〕 八二一二四
へりくだる〔遜る〕 三二一二四
へりくつ〔屁理屈〕 一二一二四
へりこぷたー〔ヘリコプタ〕 一八二一二四
へる〔減る〕 二三二一二五
へる〔経る〕 九七二一二六
ぺるしあ〔ペルシア〕 五二一二九
ぺるしあ〔ペルシア〕 一二一二九
べると 二三二一二九
べるりん〔ベルリン〕 一三二二〇
べれーぼう〔ベレー帽〕 七二二二〇
べろべろ 一二二二〇
ぺろりと 一二二二一
へんあい〔偏愛〕 一二二二一
へんあつき〔変圧器〕 一二二二一
へんい〔変移〕 二二二二一
べんい〔便意〕 一二二一
へんうん〔片雲〕 四二二二一
へんえい〔片影〕 九二二二一
へんか〔返歌〕 一二二二一
へんか〔変化〕 五五二二二一
べんかい〔弁解〕 五二二二三
へんかく〔変革〕 二二二二三
へんがく〔扁額〕 一一二二三
べんがく〔勉学〕 一二二二四
へんかん〔返還〕 三二二二四
べんき〔便器〕 七二二二四
べんぎ〔便宜〕 二二二二四
ぺんき 二七二二二四
へんきょう〔辺境〕 二二二二五
へんきょう〔偏狭〕 二二二二五
べんきょう〔勉強〕 二六二二二五
へんきん〔返金〕 一二二二六
へんくつ〔偏屈〕 一二二二六
へんけい〔変型〕 二二二二六
へんけい〔変形〕 三二二二六
べんけい〔弁慶〕 一〇二二二七
べんけいかに〔弁慶蟹〕 二二二二七
べんけいそう〔弁慶草〕 二二二二七
べんけいばし〔弁慶橋〕 五二二二七
へんけん〔偏見〕 一二二二七
べんご〔弁護〕 四二二二七
へんこう〔偏向〕 一二二二八
へんこう〔変更〕 一二二二八
べんごし〔弁護士〕 七二二二八
べんごにん〔弁護人〕 一二二二八
へんさい〔返済〕 一二二二八
べんざいてん〔弁財天〕 七二二二八
ぺんさき〔ペン先〕 三二二二八
へんさん〔編纂〕 六二二二八
へんし〔変死〕 二二二二九
へんじ〔返事〕 三五二二二九
ぺんじく〔ペン軸〕 二二三二〇
へんしつ〔偏執〕 三二三二〇
へんしつ〔変質〕 四二三二〇
へんしゅ〔変種〕 一二三二〇
へんしゅう〔編集〕 一五二三二〇
へんしゅうきょく〔編輯局〕 一二三二一
へんしゅうしつ〔編輯室〕 一三二三二一
べんじょ〔便所〕 二六二三二一
へんしょう〔遍照〕 八二三二一
べんしょうほう〔弁証法〕 二二三二一
へんしょく〔変色〕 三二三二一
へんしょく〔偏食〕 二二三二一
へんしん〔返信〕 三二三二一
へんしん〔変心〕 二二三二一
へんしん〔変身〕 四二三二一
へんじん〔変人〕 一二三二一
へんずつう〔偏頭痛〕 四二三二一
べんずる〔弁ずる〕 三二三二一
へんせい〔編成〕 四二三二一
へんせいがん〔変成岩〕 一二三二一

へんせいき〔変声期〕　三　二三四
へんせつ〔変節〕　一　二三四
へんせん〔変遷〕　一〇　二三四
へんそう〔変相〕　二　二三四
へんそう〔変装〕　二　二三四
へんそく〔変速〕　一　二三四
へんたい〔編隊〕　二四　二三五
へんたい〔変態〕　四　二三五
へんたいがな〔変体仮名〕　一　二三五
へんたいき〔編隊機〕　一四　二三六
へんたいせい〔変態性〕　一　二三六
へんたいてき〔変態的〕　二　二三六
ぺんだこ〔ペンだこ〕　一　二三六
ぺんだんと〔ペンダント〕　一　二三六
へんち〔辺地〕　三　二三六
べんち〔ベンチ〕　六五　二三六
へんちょ〔編著〕　一　二三八
へんてつ〔変哲〕　四　二三八
へんてん〔変転〕　一〇　二三九
べんてん〔弁天〕　四　二三九
べんてんいけ〔弁天池〕　一　二三九
べんてんぐう〔弁天宮〕　一　二三九
べんてんじま〔弁天島〕　一　二三九
へんでんしょ〔変電所〕　八　二三九
べんてんどう〔弁天堂〕　三　二四〇
へんど〔辺土〕　一四　二四〇
へんとう〔返答〕　二　二四〇
へんどう〔変動〕　四　二四〇
べんとう〔弁当〕　八一　二四一
へんとうせん〔扁桃腺〕　三　二四三
べんとうばこ〔弁当箱〕　五　二四三
へんに〔変に〕　四　二四三
へんのう〔返納〕　三　二四三
べんぴ〔便秘〕　一　二四四
へんぴん〔返品〕　一　二四四
へんぷく〔辺幅〕　一　二四四
へんぺい〔扁平〕　一〇　二四四
べんべつ〔弁別〕　二　二四四
へんぺん〔片片〕　一二　二四四
べんべん〔便便〕　二　二四五
ぺんぺんぐさ〔ぺんぺん草〕　一三　二四五
へんぽう〔変貌〕　二二　二四五
へんぽん〔翻翻〕　七　二四六
べんまくしょう〔弁膜症〕　一　二四六
べんめい〔弁明〕　二　二四六
へんもく〔編目〕　一　二四六
へんよう〔変容〕　一　二四六
べんり〔便利〕　一　二四六
へんりん〔片鱗〕　一　二四六
へんれき〔遍歴〕　四　二四七
へんろ〔遍路〕　三一　二四七
べんろん〔弁論〕　三　二四八
ぼーい〔ボーイ〕　一一　二四八
ほーむ〔ホーム〕　一二五　二四八
ほーむらん〔ホームラン〕　一　二五二
ぼーりんぐ〔ボーリング〕　二　二五二
ぼーりんぐじょう〔ボーリング場〕　二　二五二
ほーる〔ホール〕　一二　二五二
ぼーる〔ボール〕　四三　二五三
ぼーるど〔ボールド〕　一　二五四
ほ〔帆〕　二〇三　二五四
ほ〔穂〕　一八七　二六〇
ほあん〔保安〕　二　二六五
ほあんたい〔保安隊〕　二　二六五
ほあんぼう〔保安帽〕　一　二六六
ほあんりん〔保安林〕　三　二六六
ぽい　二二　二六六
ほいく〔保育〕　一　二六七
ほいくじょ〔保育所〕　一　二六七
ほいっぽ〔歩一歩〕　一　二六七
ほいほい　一　二六七
ぽいら〔ボイラー〕　九　二六七
ほいろ〔焙炉〕　一　二六七
ぽいん〔母音〕　一　二六七
ぽいんと〔ポイント〕　五　二六八
ほう〔法〕　七八　二六八
ぼう〔棒〕　三四　二七〇
ぼうあつ〔暴圧〕　一　二七一
ほうあん〔法案〕　三　二七一
ほうい〔方位〕　四　二七一
ほうい〔法衣〕　一七　二七一
ほうい〔包囲〕　一三　二七二
ほういがくしゃ〔法医学者〕　一　二七二
ほういじん〔包囲陣〕　三　二七二

ほういせん〔包囲線〕 三 二七二
ほういん〔法印〕 一 二七二
ぼうう〔暴雨〕 九 二七三
ほうえ〔法会〕 九 二七三
ぼうえい〔防衛〕 七 二七三
ほうえいろん〔防衛論〕 一 二七三
ぼうえき〔貿易〕 八 二七三
ぼうえきふう〔貿易風〕 二 二七四
ほうえつ〔法悦〕 三 二七四
ほうえん〔砲煙〕 八 二七四
ほうえん〔豊艶〕 一 二七四
ぼうえん〔望遠〕 一 二七四
ぼうえんきょう〔望遠鏡〕 二八 二七四
ほうおう〔法王〕 一 二七五
ほうおう〔法皇〕 三 二七五
ほうおう〔鳳凰〕 二五 二七六
ほうおうき〔鳳凰木〕 七 二七六
ほうおうどう〔鳳凰堂〕 一二 二七六
ぼうおし〔棒押し〕 一 二七七
ほうおんいん〔報恩院〕 一 二七七
ぼうおんがらす〔防音ガラス〕 一 二七七
ぼうおん〔忘恩〕 一 二七七
ぼうおんそうち〔防音装置〕 一 二七七
ほうか〔放下〕 五 二七七
ほうか〔邦家〕 一 二七七
ほうか〔放課〕 三 二七七
ほうか〔砲火〕 一〇 二七八
ほうか〔烽火〕 七 二七八
ほうか〔放火〕 三 二七八
ぼうか〔防火〕 一 二七八
ぼうが〔忘我〕 九 二七八
ほうか〔砲架〕 九 二七八
ほうかい〔法界〕 七 二七八
ほうかい〔崩壊〕 一 二七八
ほうがく〔方角〕 八 二七八
ほうがくし〔法学士〕 二 二七九
ほうかご〔放課後〕 三 二七九
ぼうかえんしゅう〔防火演習〕 八 二七九
ぼうかすい〔防火水〕 一 二七九
ぼうかすいそう〔防火水槽〕 一 二七九
ぼうかせん〔防火線〕 二八 二七九
ぼうかようすい〔防火用水〕 一 二七九
ほうかん〔宝冠〕 三 二七九
ほうかん〔砲艦〕 二五 二七九
ほうかん〔幇間〕 七 二七九
ほうかん〔奉還〕 一二 二七九
ほうがん〔砲丸〕 一 二七九
ぼうかん〔防寒〕 一 二七九
ぼうかん〔傍観・傍觀〕 一 二七九
ぼうかんくつ〔防寒靴〕 一 二七九
ほうがんし〔方眼紙〕 一 二七九
ぼうかんしゃ〔傍観者〕 五 二七九
ほうかんしょう〔宝冠章〕 一 二七九
ぼうかんぼう〔防寒帽〕 三 二七九
ほうがんそう〔包含層〕 一〇 二七九
ほうき〔箒〕 七 二七九
ほうき〔法規〕 三 二七九
ほうき〔蜂起〕 三 二七九
ほうき〔放棄〕 二 二七九
ぼうぎ〔謀議〕 一 二七九
ほうきぎ〔箒木〕 三 二七九
ほうきぐさ〔帚草〕 一六 二七九
ほうきぼし〔帚星〕 一三 二七九
ほうきめ〔箒目〕 一 二八〇
ぼうきゃく〔忘却〕 四 二八〇
ぼうぎゃく〔暴虐〕 一 二八〇
ほうきゅう〔俸給〕 五 二八〇
ほうきゅうせいかつ〔俸給生活〕 六 二八〇
ほうぎょ〔崩御〕 五 二八〇
ぼうきょ〔暴挙〕 七 二八〇
ぼうぎょ〔防御〕 二 二八一
ぼうきょう〔防共〕 五 二八一
ぼうきょう〔望郷〕 一 二八一
ぼうきょうだい〔望郷台〕 二 二八一
ほうぎょく〔宝玉〕 四 二八一
ぼうきれ〔棒切れ〕 七 二八一
ぼうぐ〔防具〕 一六 二八二
ぼうぐい〔棒杙〕 一 二八二
ぼうくう〔防空〕 三 二八二
ぼうくうえんしゅう〔防空演習〕 一〇 二八二
ぼうくうごう〔防空壕〕 一 二八三
ぼうくうずきん〔防空頭巾〕 四 二八三
ぼうくん〔暴君〕 一 二八三
ぼうくうくんれん〔防空訓練〕 六三 二八三

ほうけい〔方形〕 二八 二九〇
ほうげい〔奉迎〕 一 二九一
ぼうけい〔亡兄〕 六 二九一
ほうげき〔砲撃〕 一六 二九一
ほうける〔惚ける・呆ける〕 二 二九二
ほうけん〔宝剣〕 二 二九二
ほうけん〔封建〕 一一 二九二
ほうげん〔方言〕 四 二九三
ほうがん〔法眼〕 二 二九三
ほうげん〔放言〕 五 二九三
ぼうけん〔冒険〕 七 二九三
ぼうけん〔剖検〕 二 二九三
ぼうげん〔暴言〕 三 二九三
ほうけんじだい〔封建時代〕 一 二九四
ほうけんせい〔封建性〕 四 二九四
ほうけんてき〔封建的〕 三 二九四
ほうこ〔宝庫〕 三 二九四
ほうご〔法語〕 一 二九四
ぼうご〔防護〕 一 二九四
ほうこう〔方向〕 五五 二九四
ほうこう〔芳香〕 六 二九六
ほうこう〔砲口〕 九 二九六
ほうこう〔彷徨〕 一三 二九六
ほうこう〔奉公〕 一一 二九七
ほうこう〔咆哮〕 三 二九七
ほうこう〔放校〕 一 二九七
ほうごう〔縫合〕 一 二九七
ぼうこう〔膀胱〕 二 二九七
ぼうこう〔暴行〕 二 二九七
ほうこうくち〔奉公口〕 一 二九八
ほうこうふくろ〔奉公袋〕 六 二九八
ほうこく〔報国〕 一 二九八
ほうこく〔報告〕 一七 二九八
ぼうこく〔亡国〕 五 二九九
ぼうこく〔某国〕 一 二九九
ほうこくしょ〔報告書〕 四 二九九
ほうざ〔砲座〕 二 二九九
ぼうさい〔亡妻〕 一六 二九九
ほうさく〔豊作〕 二三 二九九
ほうさくがた〔豊作型〕 三 三〇〇
ぼうさりん〔防砂林〕 四 三〇〇
ほうさん〔奉賛〕 一 三〇〇
ほうさん〔硼酸〕 三 三〇〇
ほうさん〔放散〕 三 三〇一
ぼうさん〔坊さん〕 二 三〇一
ほうさんすい〔硼酸水〕 一 三〇一
ほうし〔法師〕 一〇二 三〇一
ほうし〔胞子〕 一八 三〇三
ほうし〔奉仕〕 二三 三〇四
ほうし〔放恣〕 七 三〇五
ほうじ〔法事〕 六 三〇五
ほうじ〔奉持・捧持〕 二 三〇五
ぼうし〔帽子〕 九九 三〇五
ぼうし〔防止〕 四 三〇八
ぼうし〔亡師〕 二 三〇九
ぼうし〔亡児〕 四 三〇九
ほうしぜみ〔法師蟬〕 四五 三〇九
ほうじちゃ〔焙じ茶〕 二 三一〇
ぼうじつ〔某日〕 六 三一〇
ほうしゃ〔報謝〕 二 三一〇
ほうしゃ〔放射〕 九 三一〇
ほうしゃ〔砲車〕 三七 三一一
ほうしゃこう〔放射光〕 一 三一二
ほうしゃこうせん〔放射光線〕 一 三一二
ほうしゃねつ〔放射熱〕 二 三一二
ほうしゃせん〔放射線〕 一 三一二
ぼうじゃくぶじん〔傍若無人〕 七 三一二
ほうしゃじょう〔放射状〕 三 三一二
ほうしゃせん〔放射線〕 五 三一二
ほうしゃのう〔放射能〕 二三 三一三
ほうしゃのうう〔放射能雨〕 三 三一三
ほうしゃのうじん〔放射能塵〕 一 三一三
ほうしゅ〔砲手〕 一 三一三
ほうしゅ〔防守〕 一 三一四
ほうしゅう〔報酬〕 三 三一四
ほうじゅう〔放縦〕 八 三一四
ぼうしゅう〔房州〕 六 三一四
ほうしゅく〔奉祝〕 一 三一四
ほうしゅつ〔放出〕 五 三一四
ほうじゅん〔芳醇〕 二 三一四
ぼうじょ〔防除〕 三 三一五
ほうじょう〔方丈〕 四四 三一五
ほうじょう〔豊穣〕 一 三一六
ほうじょう〔豊饒〕 七 三一六

ほうじょう〔褒状〕　一　三一六
ぼうしょぼう〔防暑帽〕　一　三一六
ぽいんしあな〔ポインシアナ〕　一　三一六
ぽいんせちあ〔ポインセチア〕　七　三一六
ほうおうぼく〔鳳凰木〕　二　三一七
ほうきぐさ〔箒草〕　二　三一七
ほうしょく〔飽食〕　四　三一七
ほうじょうき〔方丈記〕　一　三一七
ほうじょうせき〔方丈石〕　二　三一七
ほうじる〔焙じる〕　一　三一七
ほうしん〔方針〕　三　三一八
ほうしん〔砲身〕　一三　三一八
ほうしん〔放心〕　二一　三一八
ほうじん〔邦人〕　三　三一九
ほうず〔方図〕　一　三一九
ぼうず〔坊主〕　二三　三一九
ぼうずあたま〔坊主頭〕　二　三二〇
ぽーず〔ポーズ〕　一　三二〇
ほうすい〔放水〕　三　三二〇
ぼうすい〔紡錘〕　二　三二〇
ぼうすい〔防水〕　一　三二〇
ぼうすい〔防水着〕　一　三二〇
ぼうすいおけ〔防水桶〕　一　三二〇
ほうすいこう〔放水口〕　一　三二〇
ぼうすいふく〔防水服〕　二　三二一
ぼうすいけい〔紡錘形〕　一　三二一
ほうすいしゃ〔放水車〕　一　三二一
ほうすいろ〔放水路〕　二〇　三二一
ほうずる〔報ずる〕　五　三二一
ほうずる〔奉ずる〕　一　三二二
ほうすん〔方寸〕　一　三二二
ほうせい〔砲声〕　三二　三二二
ほうせき〔宝石〕　二九　三二三
ぼうせき〔紡績〕　七　三二四
ぼうせつ〔防雪〕　一　三二四
ぼうせつりん〔防雪林〕　一五　三二四
ぼうせん〔傍線〕　一　三二四
ぼうぜん〔呆然・茫然〕　二三　三二四
ぼうぜん〔茫然〕　四九　三二五
ほうせんか〔鳳仙花〕　一〇　三二六
ほうそう〔疱瘡〕　七　三二九
ほうそう〔包装〕　三　三二九
ほうそう〔放送〕　一〇九　三三〇
ほうぞう〔宝蔵〕　六　三三三
ほうぞう〔包蔵〕　一　三三三
ぼうそう〔房総〕　一〇　三三三
ほうそうきょく〔放送局〕　一　三三三
ほうそうきょく〔放送劇〕　二　三三四
ほうそうし〔包装紙〕　一　三三四
ほうそうしゃ〔放送車〕　二　三三四
ほうそうとう〔放送塔〕　一　三三四
ほうそうとうろん〔放送討論〕　二　三三四
ほうそく〔法則〕　六　三三四
ほうたい〔包帯・繃帯〕　四九　三三四
ほうだい〔放題〕　四　三三六
ほうだい〔砲台〕　九　三三六
ぼうだい〔厖大〕　四　三三六
ほうたいこう〔豊太閤〕　五　三三六
ぼうだち〔棒立〕　三　三三七
ほうたん〔放胆〕　八　三三七
ほうだん〔砲弾〕　四九　三三七
ぼうだん〔防弾〕　一　三三九
ほうち〔放置〕　五　三三九
ほうち〔報知〕　四　三三九
ほうちこく〔法治国〕　二　三三九
ほうちき〔報知機〕　一　三三九
ほうちゃく〔逢着〕　四　三三九
ぼうちゅうざい〔防虫剤〕　一　三三九
ほうちょう〔包丁・庖丁〕　二三　三三九
ほうちょう〔放鳥〕　三　三四〇
ぼうちょう〔防潮〕　二　三四〇
ぼうちょう〔膨張・膨脹〕　三　三四〇
ぼうちょう〔傍聴〕　三　三四〇
ほうちょうせき〔傍聴席〕　二　三四一
ぼうちょうき〔防潮杙〕　三　三四一
ぼうちょうへき〔防潮壁〕　一　三四一
ぼうはてい〔防波堤〕　二二　三四一
ぼうっと　四　三四一
ほうてい〔法廷〕　一四　三四一
ほうていしき〔方程式〕　二　三四一
ほうてき〔放擲〕　二　三四一
ほうてん〔奉天〕　一二　三四一
ほうでん〔放電〕　二　三四二
ほうてんかいせん〔奉天会戦〕　一　三四二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ほうでんしょ〔放電所〕 一 三四三
ほうでんとう〔放電塔〕 一 三四三
ほうでんとう〔放電灯〕 一 三四三
ほうと 一二 三四三
ぼうと〔暴徒〕 八 三四三
ほうとう〔法灯〕 三 三四四
ほうとう〔宝塔〕 六 三四四
ほうとう〔放蕩〕 四 三四四
ほうどう〔報道〕 一八 三四四
ぼうとう〔冒頭〕 三 三四五
ぼうとう〔暴騰〕 二 三四五
ぼうどう〔暴動〕 四 三四五
ぼうどう〔蓬頭〕 一 三四五
ほうどう〔報道写真〕 一 三四五
ほうどうじん〔報道陣〕 一 三四五
ほうどく〔奉読〕 一 三四六
ぼうとく〔冒瀆〕 一 三四六
ぼうどくますく〔防毒マスク〕 一 三四六
ぼうどくめん〔防毒面〕 四 三四六
ほうなん〔法難〕 一 三四六
ほうにちだん〔訪日団〕 一 三四六
ほうにょう〔放尿〕 三 三四六
ほうにん〔放任〕 一 三四六
ほうねんしょうにん〔法然上人〕 一三 三四六
ほうねん〔豊年〕 二〇 三四七
ぼうねんかい〔忘年会〕 一 三四七
ほうねんおんど〔豊年音頭〕 一 三四七
ほうのう〔奉納〕 一〇 三四七
ほうのうしゃ〔奉納者〕 一 三四八
ほうはい〔澎湃〕 三 三四八
ほうばい〔朋輩・傍輩〕 五 三四八
ぼうばく〔茫漠〕 二九 三四八
ぼうはてい〔防波堤〕 二二 三四九
ぼうはん〔防犯〕 一 三四九
ほうひ〔放屁〕 三 三四九
ほうび〔褒美〕 四 三五〇
ぼうび〔防備〕 二 三五〇
ほうびしだ 一 三五〇
ほうふ〔抱負〕 二 三五〇
ほうふ〔豊富〕 三 三五〇
ぼうふ〔亡夫〕 一三 三五〇
ぼうふ〔亡父〕 二二 三五一
ぼうふう〔防風〕 一八 三五一
ぼうふう〔暴風〕 一一一 三五二
ぼうふうう〔暴風雨〕 一三五 三五五
ぼうふうりん〔防風林〕 八 三五九
ほうふく〔報復〕 二 三五九
ぼうふざい〔防腐剤〕 一 三五九
ほうふつ〔彷彿・髣髴〕 一一 三六〇
ほうぶつせん〔放物線・抛物線〕 五 三六〇
ぼうふら〔子々〕 九 三六〇
ほうへい〔砲兵〕 五 三六〇
ほうへいこうしょう〔砲兵工廠〕 二 三六一
ほうへいたい〔砲兵隊〕 四 三六一
ぼうへき〔防壁〕 二 三六一
ほうべん〔方便〕 三 三六一
ほうほう 四七 三六一
ほうぼう 一 三六一
ほうほう〔方法〕 三 三六二
ほうぼう〔方方・方々〕 三 三六二
ほうほう 一 三六二
ほうぼう〔茫茫・茫々〕 八一 三六二
ぼうぼう 四 三六五
ほうほうろん〔方法論〕 一 三六五
ほうぼく〔放牧〕 三九 三六五
ほうまつ〔泡沫〕 一四 三六六
ほうまん〔飽満〕 二 三六七
ほうまん〔放漫〕 一 三六七
ほうまん〔豊満〕 四 三六七
ほうみょう〔法名〕 四 三六七
ほうむる〔葬る〕 五三 三六七
ほうめいぼ〔芳名簿〕 二 三六九
ぼうめい〔亡命〕 七 三六九
ほうめいでん〔豊明殿〕 九 三六九
ほうめん〔方面〕 三 三六九
ほうめん〔放免〕 一 三七〇
ほうもつ〔宝物〕 四 三七〇
ほうもつかん〔宝物館〕 二 三七〇
ほうもつでん〔宝物殿〕 二 三七〇
ほうもん〔砲門〕 三 三七〇
ほうもん〔訪問〕 六 三七〇
ほうもんぎ〔訪問着〕 二 三七〇
ほうもんきしゃ〔訪問記者〕 一 三七〇
ほうもんふく〔訪問服〕 一 三七〇

ほうやく〔暴勇〕　一　三七一
ほうゆう〔朋友〕　一　三七一
ぼうゆう〔亡友〕　六　三七一
ほうよう〔法要〕　五　三七一
ほうよう〔抱擁〕　三　三七一
ぼうよう〔茫洋〕　三　三七一
ほうらい〔蓬萊〕　一四　三七一
ほうらいさん〔蓬萊山〕　一　三七二
ほうらいじ〔鳳来寺〕　七　三七二
ほうらいしま〔蓬萊島〕　二　三七二
ほうらくこうせいきょく〔法楽交声曲〕　一　三七二
ほうらく〔崩落〕　六　三七二
ぼうらく〔暴落〕　三　三七二
ほうらつ〔放埒〕　一六　三七三
ほうらん〔抱卵〕　二　三七三
ほうり〔法理〕　一　三七三
ほうりき〔法力〕　一　三七三
ほうりつ〔法律〕　九　三七三
ほうりゃく〔方略〕　一　三七四
ぼうりゃく〔謀略〕　四　三七四
ほうりゅう〔放流〕　七　三七四
ほうりゅうじ〔法隆寺〕　四〇　三七四
ぼうりょく〔暴力〕　二八　三七五
ぼうりょくだん〔暴力団〕　一　三七六
ぼーりんぐ〔ボーリング〕　三　三七六
ぼーりんぐじょう〔ボーリング場〕　二　三七六
ほうる〔放る・抛る〕　一二　三七六
ほうる〔屠る〕　九　三七七
ほうれい〔法令〕　二　三七七
ほうれい〔豊麗〕　二　三七七
ぼうれい〔亡霊〕　七　三七七
ほうれつ〔砲列〕　二　三七八
ほうれんそう〔菠薐草・ほうれん草〕　二六　三七八
ほうろう〔琺瑯〕　一　三七八
ほうろう〔放浪〕　一三　三七九
ぼうろう〔望楼〕　二一　三七九
ほうろうしゃ〔放浪児・放浪者〕　三　三八〇
ほうわ〔法話〕　一三　三八〇
ほうわ〔飽和〕　三　三八〇
ほうわてん〔飽和点〕　一　三八〇
ほえる〔吠える・吼える〕　三　三八〇
ぼえん〔墓園〕　一　三八〇
ぼお〔朴〕　一九二　三八〇
ほおえむ〔微笑む〕　七　三八六
ほおかぶり〔頬被り〕　二　三八六
ほおける〔蓬ける〕　一　三八六
ほおじろ〔頬白〕　一一　三八六
ほおずき〔酸漿・鬼灯〕　五〇　三八九
ほおずり〔頬擦り〕　二　三九〇
ほおづえ〔頬杖〕　二三　三九〇
ほうのき〔朴の木・厚朴〕　六六　三九一
ほおば〔朴歯〕　一　三九三
ほおひげ〔頬髭〕　二　三九三
ほおべに〔頬紅〕　六　三九三
ほおぼね〔頬骨〕　一二　三九三
ほおん〔保温〕　三　三九四
ぼおん〔母音〕　一　三九四
ほかく〔捕獲〕　五　三九四
ほかけ〔帆掛け〕　一　三九四
ほかげ〔火影・灯影〕　七九　三九四
ほかげ〔帆影〕　六　三九六
ぼかす〔暈かす〕　三　三九七
ほかほか　三三　三九七
ぽかぽか　四　三九八
ほがら〔朗ら〕　一九　三九八
ほがらか〔朗らか〕　二〇二　三九九
ぼかん〔母艦〕　一九　四〇五
ぽかん　五　四〇五
ぼき〔簿記〕　二　四〇六
ほきうた〔祝歌〕　三　四〇六
ほきさけ〔祝酒〕　五　四〇六
ぽきぽき　五　四〇六
ぼきぼき　一　四〇六
ほきゅう〔補給〕　四　四〇六
ほきょう〔補強〕　一　四〇七
ぽきり　一　四〇七
ぼきん〔募金〕　九　四〇七
ほぐ〔祝ぐ・寿ぐ・壽ぐ〕　四四　四〇七
ほく〔惚。呆。〕　二　四〇八
ぼく〔僕〕　五六　四〇八
ほくい〔北緯〕　四　四一一
ほくおう〔北欧〕　八　四一一
ぼくが〔墨画〕　一　四一一
ほくがん〔北岸〕　四　四一一

ぼくぎゅう〔牧牛〕 二 四一一
ほくげん〔北限〕 四 四一一
ぼくさつ〔撲殺〕 一 四一二
ぼくし〔牧師〕 一二 四一二
ぼくしゃ〔牧舎〕 一一 四一二
ぼくじゅう〔墨汁〕 四 四一二
ぼくじょう〔牧場〕 四四 四一三
ぼくじん〔牧人〕 一 四一四
ほくしん〔北進〕 一 四一四
ぼくしん〔牧神〕 二 四一四
ぼくしんぐ〔ボクシング〕 二 四一四
ほぐす〔解す〕 一二 四一四
ぼくすい〔墨水〕 三 四一五
ほくせい〔北西〕 一 四一五
ぼくせき〔木石〕 六 四一五
ぼくせき〔墨跡・墨蹟〕 五 四一五
ぼくそう〔牧草〕 三三 四一五
ほくそえむ〔ほくそ笑む〕 一 四一六
ほぐち〔火口〕 一 四一六
ほくと〔北斗〕 一六 四一六
ほくとう〔北東〕 二 四一七
ぼくどう〔牧童〕 一 四一七
ほくとしちせい〔北斗七星〕 七 四一七
ほくとせい〔北斗星〕 七 四一七
ぼくとつ〔朴訥〕 四 四一七
ほくぶ〔北部〕 一 四一八
ぼくふ〔牧夫〕 一 四一八
ほくべい〔北米〕 一 四一八
ほくへん〔北辺〕 一三 四一八
ほくほく 一二 四一八
ぼくぼく 一 四一九
ぽくぽく 三 四一九
ぽくぽく 一 四一九
ぼくめつ〔撲滅〕 一 四一九
ほくめん〔北面〕 七 四一九
ぼくや〔牧野〕 四 四一九
ほくよう〔北洋〕 五 四一九
ほくようぎょぎょう〔北洋漁業〕 一 四二〇
ぼくようしん〔牧羊神〕 二 四二〇
ほぐら〔寶庫〕 一 四二〇
ぼくり〔木履〕 一五 四二〇
ほくりく〔北陸〕 七 四二〇
ほくりくどう〔北陸道〕 二 四二一
ほくりゅう〔北流〕 一 四二一
ほぐる 一 四二一
ほくろ〔ホクロ・黒子〕 三八 四二一
ぼけ〔木瓜〕 一六九 四二二
ほげいせん〔捕鯨船〕 一二 四二七
ほけきょう〔法華経〕 一九 四二七
ほけごころ〔呆心〕 一 四二八
ぼけつ〔墓穴〕 二 四二八
ぽけっと〔ポケット〕 七三 四二八
ぼける〔呆ける〕 二 四三〇
ほけん〔保険〕 一一 四三〇
ほけんきん〔保険金〕 一 四三一
ほけんじょ〔保健所〕 二 四三一
ほこ 一 四三一
ほご〔反古〕 五二 四三一
ほご〔保護〕 七 四三三
ほこう〔歩行〕 二一 四三三
ぼこう〔母校〕 六 四三四
ほこうき〔歩行器〕 七 四三四
ほこうしゃ〔歩行者〕 一 四三四
ぼこく〔母国〕 八 四三四
ほごく〔保護区〕 一 四三五
ぼこくご〔母国語〕 二 四三五
ほごくつ〔保護靴〕 一 四三五
ほこさき〔矛先・鋒先〕 一 四三五
ほごしゃ〔保護者〕 一 四三五
ほごしょく〔保護色〕 七 四三五
ほごす〔解す〕 八 四三五
ほこだち 一 四三五
ほごぼう〔保護帽〕 四 四三六
ほこすぎ 二四 四三六
ぼこぼこ 一 四三六
ほこら〔祠〕 七九 四三六
ほこらか〔誇らか〕 一〇 四三八
ほこらしい〔誇らしい〕 一 四三九
ほこらく〔矜〕 一 四三九
ほこらしげ〔誇らしげ〕 五 四三九
ほこり〔ホコリ・埃〕 三六五 四三九
ほこり〔誇り〕 三五 四五〇
ほこりか〔誇〕 一 四五一
ほこる〔誇る〕 四九 四五一

ほころぶ〔綻ぶ〕　一八　四五三
ぼさ〔叢〕　一　四五三
ほさき〔穂先〕　五三　四五三
ほざく　二　四五五
ぼさつ〔菩薩〕　九〇　四五五
ほさら〔灯皿〕　二　四五七
ぼさん〔墓参〕　二〇　四五八
ほし〔星〕　八八　四五八

計　一三八五六　首

ふんぬ【名詞】〔憤怒・忿怒〕

いかり。

秋篠寺の小さき十二神将の忿怒の面笑ふとも見ゆ㊀　芳忠復子

あきらめのため息ならず火の山は憤怒の息を大空にはく②　九條武子

あやまりて見るらむ人にさびしさの憤怒となることもなくなりにけり②　臼井大翼

憤怒おほふすべなし故郷さかる相模の小野に炎に囲まれつ①　宮柊二

憤怒抑へかぬれば夜おそく起きてすぱりと切る鮪かも②　北原白秋

憤怒堪へつつのぼる我が歩み陸橋にかかり夏の富士見ゆ⑥　北原白秋

（現代短歌大系）

幾たびか寝(いね)られざりし夜のこと憤怒さへそこにこもりて④　斎藤茂吉

生くる身の憤怒露にかくすなき招杜羅神将親しきものを④　千代国一

思ひつめし涯の憤怒のそのあとに湧き来るものが刺のごと寥し　濱田翠愁

（多磨四）

愚かしきみづからに向きて湧く憤怒遣る方もなし残滓の如在る①　市川敦子

鎌倉期仁王の面(めん)の欄間にあり憤怒の相の解くる時なく②　窪田空穂

巌上に半伽趺座する赤不動忿怒の相にひそむ静けさ⑲　窪田空穂

国にかかる大き憤怒ねむれざる蒸し暑きままを秋ふけにけり①　荒木暢夫

苦悶自嘲哀訴憤怒其の他さまざまの興奮に歪む顔一目見つ②　村田利明

鶏頭は憤怒の王に似たれども池にうつして自らを愛づ⑯　與謝野晶子

小人の喜怒の境と自戒て言はずつづらざりし憤怒よ今に④　館山一子

山門に憤怒の相の仁王様いにしへもいまもこゑなく立てり①　寺門一郎

何事も言はぬと言ひし姑の表情は激しく憤怒つつめり②　藤原東川

人間の心にありてあなあはれ阿しく婆仏の無忿怒の相④　谷鼎

歯豁に嘲みわらへる奮衣姿の貌は憤怒の相よりも凄し③　岡本大無

憤怒相彫りたる佛師偲びつつ目を近づけぬ胸甲の朱に⑦　宮柊二

忿怒相の馬頭観世音ちかづきて仰げば馬の鼻の孔(あな)見ゆ⑧　川田順

街底はにごりの推みて夕蒼き路はあへなし憤怒し潰ゆ（多磨四）　朝與十望夫

路の小砂利のひとつひとつに憤怒のやうないのちがこもって燃える八月　幹愴太

向くるべく方なき憤怒われのもちわづかなことに妻と争ふ⑥　松村英一

蒸す雲の立雲思へば息の緒に息こらへ立つ憤怒の神　北原白秋

休むなき身ははやばやと家を出づストに憤怒の思すらなく㊀　三浦武

わが世界狭しとおもひ夜半にをり次第に猛りくる憤怒あり④　宮柊二

（角川文庫）

我が憤怒阿修羅のごとく時ありし眼角思へば今は幽けさ⑩　北原白秋

（現代短歌大系多摩四）

ぶんのう【名詞】〔分納〕

分納の骨のいくつを棚にまもる僧よりあがなふ六瓢の玩具③　松本滋代

ぶんぱい【名詞】〔分配〕

①いくつかに分けて配ること。

地引する男をみな等いきどほる網元の金の分配の錯誤を③　広野三郎

遺産分配にふれで終れる父の遺書すがすがと繰返し読みあげられき（新萬葉集五）　富田むめ

ふんばり【名詞】〔踏ん張り〕

①足に力をいれて立ち、倒れたり、動いたりしまいとする。②つらさなどをこらえて頑張る。

大裾野みぎとひだりにふんばりて空をしめたる山のゆたけさ② 湯本喜作

大祖父が国の守よりたばりしちふその則光のつよきふんばり⑩ 安江不空

髪さか堅ち眼怒らしこれの鬼ふんばり立てりただに気おひて③ 岡本大無

障子つかみひとりだちする幼児の足のふんばりたしかとなれり 石井久

力入れて父がなしたる仕事をばふんばりなさんよし及ばずも 豊島晃

（美穂）

一つゐるあめんぼは脚をふんばりてふみてゆく水面の微かに窪む④ 栗原潔子

武烈王の秘書のせて立つ亀の足のふんばり石とはおもへず① 小畑勇吉

ふんばる【動詞ラ五〔四〕】〔踏ん張る〕

蛇行する列のまんなかに彼もゐてグイとふんばる足すぐそこに見る⑤ 渡辺順三

海苔のかけら身に余るらし担がむと机の蟻の足をふんばる② 都筑省吾

ぶんぴ【名詞】〔分泌〕

細胞が生体にとって特殊な用途をもつ生産物を排出すること。

沓下の美学、沓下の力学、あそこから少女たちは快活な歩調を分泌する④ 清水信

ぶんぴえき【名詞】〔分泌液〕

血液と分泌液とに立ちまじりわがすぐす世をそかにか言わむ 米川稔

ぶんぴつ【名詞】〔文筆〕

文章を書くこと。

汗かきて多慾なりける文筆のきのふを疎め老いにけるかな⑩ 太田水穂

文筆の業するばかりにもつたいな父にも貧しき生活をさせつ 柴山武矩

（新萬葉集四）

ふんびょう【名詞】〔分秒〕

きわめて短い時間。

人咳きて息盡きむとき幽けかり分秒の和無しといはなくに㊀ 北原白秋

（村野四郎）

分秒と時間を惜しむこころもち重きまぶたを瞑ぢむとはする 若山牧水

分秒をたがへぬ天体運行の大きおどろきまさに顕る③ 山下秀之助

分秒の刻みたしかに見えゐつつ子を生まんとする力に堪ふる 清水恒子

分秒も時をたがへぬ天体の変化を見つつわれはかなしむ④ 岡野直七郎

世の姿いかになりゆくこの一日分秒といへどかりそめならぬ② 中沢庭柯

読みかへすいとまもあらず分秒を惜しみ書く記事に悔なからめや㊃ 白男川敬義

ぶんぶ【名詞】〔文武〕

学問と武芸。

文武の道時につかれて衆楽園の花に紅葉に見惚れましけむ（山鳩） 定久桃代

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com